

妙法蓮華經。 囑累品。 第二十二

爾の時に釋迦牟尼佛、法座より起つて大神力を現じたもう。右の手を以て、無量の菩薩摩訶薩の頂を摩でて、是の言を作したまわく、

我無量百千萬億阿僧祇劫に於て、是の得難き阿耨多羅三藐三菩提の法を修習せり。今以て汝等に付囑す。汝等應當に一心に此の法を流布して、廣く増益せしむべし。

是の如く三たび 諸の菩薩摩訶薩の頂を摩でて、是の言を作したまわく、

我無量百千萬億阿僧祇劫に於て、是の得難き阿耨多羅三藐三菩提の法を修習せり。今以て汝等に付囑す。汝等當に受持・讀誦し廣く此の法を宣べて、一切衆生をして普く聞知することを得せしむべし。

所以は何ん、如來は大慈悲あつて 諸の慳慳なく、亦畏るる所なくして、能く衆生に佛の智慧・如來の智慧・自然の智慧を與う。如來は是れ一切衆生の大施主なり。汝等亦隨つて如來の法を學すべし。慳慳を生ずることなかれ。

未來世に於て、若し善男子・善女人あつて如來の智慧を信ぜん者には、當に爲に此の法華經を演説して、聞知することを得せしむべし。其の人をして佛慧を得せしめんが爲の故なり。

若し衆生あつて信受せざらん者には、當に如來の餘の深法の中に於て示教利喜すべし。汝等若し能く是の如くせば、則ち爲れ已に諸佛の恩を報ずるなり。

時に 諸の菩薩摩訶薩、佛の是の説を作したもうを聞き已つて、皆大歡喜其の身に徧滿して、益恭敬を加え躬を曲げ頭を低れ、合掌して佛に向いたてまつりて、俱に聲を發して言さ

く、

世尊せそんの敕ちやくの如ごとく當まさに具つがさに奉ぶせ行ぎやうすべし。唯ゆい然ねん、世尊せそん、願ねがわくは慮り有ありざされ。

諸もろの菩薩摩訶薩ぼさつまかさつしゆかく衆しゆ是この如ごとく三反さん、俱ともに聲こゑを發はつして言もさぐ、世尊せそんの敕ちやくの如ごとく當まさに具つがさに奉ぶせ行ぎやうすべし。唯ゆい然ねん、世尊せそん、願ねがわくは慮り有ありざされ。

爾その時ときに釋迦牟尼佛しやくかにんにぶつ、十方じうほうより來きたりたまえる諸もろの分身ふんじんの佛ほとけをして、各おの本ほん土どに還かえらしめんとして、是この言ことばを作なしたまわく、

諸佛しよぶつ各おの所安しよあんに隨したがいたまえ、多寶佛たほうぶつの塔とう、還かえつて故もとの如ごとくしたもうべし。

是この語ことばを説ときたもう時とき、十方無量じうほうむりやうの分身ふんじんの諸佛しよぶつの寶樹下ほうじゆげの師子座ししざ上じやうに坐ましたまえる者もの及および多寶佛たほうぶつ、并ならに上行じやうぎやう等の無邊むへん阿僧祇あそんぎの菩薩大衆ぼさつだいしゆ、舍利弗等しかりぶつとうの聲聞四衆しやうもんししゆ、及および一切世間いっさいせけんの天てん・人にん・阿修羅等あしゆらとう、佛ほとけの所説しよせつを聞ききたてまつりて、皆大みないに歡喜かんぎす。